

平成 29 年度静岡市協働パイロット事業
子育てママが中山間地域に安心して移住できる
「藁科のくらしかた」製作業務

事業実施報告書

奥わらママ

1 委託事業の名称

平成 29 年度静岡市協働パイロット事業
「子育てママが中山間地域に安心して移住できる「藁科のくらしかた」製作業務」

2 事業の目的・趣旨

中山間地域における子育てや暮らし方に関するガイドブックを製作し、移住を希望する子育て家庭に配布し、移住の促進を支援する。また、地域住民で移住希望者の受け入れ体制を整備し、移住希望者の不安軽減のためのサポートをする。

3 事業期間

平成 29 年 6 月 30 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

4 実施場所

静岡市内

5 事業実施内容の報告

(1) 企画・編集会議の実施

【業務の分担】

藁科地区の各地区に担当を配置し、取材・写真撮影などを分担しました。

大川	川久保祥子	介護士
	中村理恵	保育士
水見色	勝山夏子	肉牛農家
	辻村麻美	茶農家
中藁科	永田愛子	保育士（育休中）
	佐藤智美	
	和田真由美	
	梶山美晴	看護師
清沢	森飛鳥	保育士
	和田絹子	
峰山	上仲伶奈	調理師
	本多麻子	
サポート	池田水穂子	里山くらし LABO 代表

【会議等実施状況】

日付	参加者	内容
8月11日(金) わらびこ	梶山、勝山、和田 (真)、森、永田、 和田(絹)、池田など	<ul style="list-style-type: none"> ・パイロット事業決定報告 ・趣旨説明 ・掲載内容の検討① ・スケジュールリング ・アンケート内容について①
8月26日(土) わらびこ	梶山、辻村、川久保、 森、和田(絹)、勝山 池田など	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容について② ・掲載内容の検討② ・掲載内容の構成について ・地域の取材担当わけ ・地域の取材対象者決め ・ヒアリング ・各所へのあいさつ文作成
8～9月	地域担当 スタッフ全員	各連長、こども園、学校への挨拶 アンケート内容の決定など
9月15日(金) 清沢生涯学習交流館	川久保、中村、永田、 勝山、森、梶山、 池田	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容確認① ・地域取材編集① ・取材ママ決定 ・掲載内容決定
9月中旬	池田	WEB アンケート作成
9末～10月	全員	アンケート調査
10月13日(金) 清沢生涯学習交流館	和田(絹)、川久保、 森、勝山、池田	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート集計スタート ・地域取材編集② ・取材ママ編集① ・割り付け①
10月27日(金) 清沢生涯学習交流館	川久保、森、 和田(絹)、勝山、 池田	<ul style="list-style-type: none"> ・地域取材編集③ ・取材ママ編集② ・割り付け②
11月7日(火) わらびこ	川久保、池田	<ul style="list-style-type: none"> ・文章校正、記事書き上げ
11月10日(金) 清沢生涯学習交流館	川久保、永田、和田 (絹)、森、勝山、 池田	<ul style="list-style-type: none"> ・取材ママ編集③ ・割り付け③ ・全体編集①
11月17日(金) 清沢生涯学習交流館	川久保、永田、中村、 和田(絹)、森、勝山	<ul style="list-style-type: none"> ・取材ママ編集④ ・レイアウト・構成①

	池田	<ul style="list-style-type: none"> ・全体編集② ・内容校正①
11月23日(木) わらびこ	奥わらママ会 川久保、勝山、森、 梶山、和田、辻村、 池田ほか	座談会の開催 スタッフ以外の母親を交えての座談会 (移住希望者、移住者も参加)
11月24日(金) 清沢生涯学習交流館	川久保、勝山、森、 池田	<ul style="list-style-type: none"> ・取材ママ編集⑤ ・レイアウト・構成② ・全体編集③ ・内容校正②
12月8日(金) 清沢生涯学習交流館	川久保、永田、和田 (絹)、勝山、池田	<ul style="list-style-type: none"> ・レイアウト・構成③ ・全体編集④ ・内容校正③
12月15日(金) 清沢生涯学習交流館	永田、和田(絹)、 勝山、森、池田	<ul style="list-style-type: none"> ・レイアウトデザイナーへ入稿 ・引き続き編集、内容校正
12～2月	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 全体の校正作業 ・各所確認作業～校正
3月17日(土)	池田	印刷会社へ入稿

【会議等実施のようす】

■10月13日(金)編集作業



アンケート調査の結果をもとに、取り上げるべき特徴的な内容を絞り込んでいく。あわせて、各地域の代表者である取材対象者の母親の取材内容から、特に掲載したい内容を絞り込む。編集者に小さな子どもの母親が多いことから、課題が明確になったら持ち帰って宿題とし、オンラインなどで確認をしながら、次回へ持ち越す。

■11月17日(金)編集作業



各地区の母親が集まることで、知らなかった他の地域のならわしや行事、まつりごとなどを知ることになり、新たに掲載したいことが増え、編集作業が追加されることが多々あった。

各地区の特徴が明らかになってきた時点で、掲載できる文字数に合わせて文章を作っていく。みな、初の編集作業に戸惑いながらも、手探りで進めていく。

■11月23日(木・祝)奥わらママ座談会

主に「移住」についてテーマをしぼった、座談会を開催。移住して数年経過している母親や、移住して間もない母親、さらには移住を希望する地区外の母親も参加をし、移り住んでからのカルチャーショックや、馴染むまでの苦労、外から越してきたことでわかる魅力などについて語った。



(2) 冊子内容を検討のうえ、下記の内容とし、必要な取材と実態調査(アンケート)を実施しました。

【冊子内容】

- ・ 葦科川流域の各地域の特徴(大川、清沢、中葦科、水見色)
- ・ 里山の生活情報
- ・ インフラ情報
- ・ 日々の暮らしにかかわる地理情報(各所への所要時間など)

- ・ 幼保こども園、各種学校情報とその生活について
- ・ 交通について
- ・ 里山の生活における人間関係
- ・ 各地域の行楽情報
- ・ 地元あるある
- ・ 地域の伝統行事
- ・ 地元の料理レシピ
- ・ 先輩移住者ママの声
- ・ 静岡市の移住サポート情報
- ・ 静岡市の子育て基本情報
- ・ 地域の習い事情報
- ・ 自治会長への取材

(3) 冊子作成

別添のとおり

- ① 数 1,000部 (400部は静岡市、600部は受託者から配布)
- ② 格 A5版フルカラー36p

(4) 移住希望者に対する受入体制の整備

水見色に移住希望者からの問い合わせがあったため、奥わらママで対応しました。

水見色地区担当：勝山夏子

移住希望者：Iファミリー

日付	内容
8月13日	水見色担当の勝山が、水見色に畑をもつというIファミリーに声をかける。こども同士が同級生だということが判明。水見色が気に入っていて、住みたい思いがあり、家をさがしていることなど聞く。
11月18日	水見色担当の勝山が、地域公開授業が開催されることを知り、他の方からすでに聞いていたIさんに、一緒に行こうと声をかける。その後、勝山の友人親子も誘い、水見色にある飲食店「さじっとの家」にて、水見色のことや、日々の生活のこと、中山間地域の暮らしについて話をする。

11月23日	水見色の販売所のまつり「きらく市まつり」へ水見色担当の勝山がIさんと一緒に参加。その後、中藁科の「都市山村交流センターわらびこ」にて開催していた奥わらママへ誘い、奥わらママの移住座談会へ参加をする。
12月9日	水見色小学校で行われている地域の行事へ勝山がIさんを誘う。お年寄りまで集まる会で、PTA、老人会参加者、水見色小学生と共に過ごす。Iさんがみかんを差し入れしてくれ、地域のみんなには水見色で畑を借りているIさん家族だと紹介する。
1月7日	水見色小学校の名物、屋外リンクのスケートへIさんファミリーとともに勝山も参加。小学校PTAの方もIさんのことを気にし、スケートがあるたびに担当の勝山に「Iさんも誘ってね」と伝えてくれるようになる。

6 考察・所感

《冊子製作》

- ・実際に居住している母親にアンケートをとることで、リアルな里山暮らしの情報を得て分析することができた。
- ・地域の暮らしやすくなるコツを知らなかった母親同士が共有することもでき、移住してきた母親などを筆頭に、地域への理解を深める一助となった。
- ・リアルな里山の生活情報を得たことで、移住を希望する家族への具体的なアドバイスがしやすくなった。あわせて、冊子を使えば多くの人が藁科川流域の里山暮らしについて語れるのは大きなへ結果につながるかと思われる。
- ・同じ藁科地区であっても、地区によって、暮らしやならわし、まつりごと、食べ物などに違いがあることがはっきりとし見直す機会になった。
- ・お嫁さんとして来るのか、移住者として来るかは共通点がありながらも、異なることが明確になった。お嫁さんであっても慣れ親しむにはコツがいること、移住者については地域の関心も高いため、馴染むためには入る前から時間をかける必要があることなども見えてきた。
- ・冊子作りを通して、当たり前だと思っていたことが他の地域や市街地では違うとわかり、スタッフ自身、地域の魅力に改めて気づくきっかけ作りにもなった。
- ・若い母親が地域を取材し、考えているということを知ってもらうことで、地域内に一部の理解者も増えたように思う。
- ・地域に暮らす母親の世代を越えた理解やつながりも生まれた。

- ・掲載される各地代表の母親の選出は、かなりの難航を極めた。里山という地域柄、突出することを嫌がる風潮がいまだに強く、掲載者の決定はもちろんのこと、取材後の掲載内容の編集や校正についても、予想をはるかに超える時間を費やした。
- ・パソコンを使えるスタッフや文章を書けるスタッフが限られていたため、一部のスタッフの負担が大きく厳しかった。
- ・情報を盛り込み過ぎたため、入稿まで時間がかかり予算が大幅オーバー。納品も直前になってしまった。

《移住希望者対応》

- ・地域の母親が移住希望者と会うことで、移住後の移住者の生活を知ることができ、漠然とした疑問や不安が解消されつつある。
- ・担当者個人への負担が大きく属人的になりがち。協力者を増やすなど工夫が必要なのことがわかった。
- ・地域により担当者はもちろん、受入れ体制の違いもあり、協力の温度差がある。地域を別にして移住希望者に対してある程度対応できる形を整える必要性があることがわかった。
- ・移住希望者にはいくつものパターンがあるため、漏れなく把握するためにも、ある程度パターンを理解し、事前に把握することが必要だと感じた。
- ・移住希望者と事前に接触できることは、移住を希望されている地域にとっても心づもりができることから、移住者への理解をすすめやすい。

《協働について》

- ・地域の情報をまとめて冊子にするという性質上、製作期間中の市との協働を考えるのが非常に難しい事業であった。
- ・冊子ができてからが協働になる事業のため、製作についてはほぼ市の担当課と協働する必要がなく、製作はしやすかったが、協働と言えるのかに疑問が残る。
- ・移住者のフォローについても今回は期間中に担当課からの移住希望者の紹介などがなかったため、奥わらママとして対応する必要がなかったのが勿体なかった。
- ・担当課から継続について軽い打診もあったが、担当課内で予算を組む前提が想定されていない話のため、パイロットとしての有効性について疑問が残った。
- ・冊子完成後が静岡市との本格的な協働となることが予測されるため、今後冊子をどのように活用していくのか、担当課の動きについては注目していきたい。